J202067 葛野友里

**・合格した職種**

⇒地方公務員

**・大学4年間のうち、各学年で公務員試験に向けてどのような勉強をしていたか**

⇒2年生の秋からLECに通い、数的処理を勉強していました。3年生になってからは大学の講義でも公務員講座を取り、3年生の内に数的処理の解答パターンを覚えられるように対策していました。3年生の後半から4年生にかけて人文科学、自然科学、社会科学の対策を始めました。

**・公務員試験を受ける上で役に立った大学の講義**

⇒公務員対策講座：筆記試験対策のために受講しておいた方が良いと思います。特に対策に時間がかかる数的処理を早いうちに習得しておくと4年生になってから楽になると思います。

職業と人生：受験の流れや面接や自己分析など就職活動をしていく上で必要な情報を知ることができるので受講していてとても助かりました。

**・平均して1日何時間くらい勉強したか。また、筆記試験前は1日何時間くらい勉強した**

⇒平日は1時間半、休日は3時間、筆記試験前は3～4時間くらい勉強していました。筆記試験は問題数に比べると時間が足りないので時間配分を意識しました。

**・役に立った教材**

⇒「公務員試験初級スーパー過去問ゼミシリーズ」・「公務員試験判断推理がみるみるわかる！解法の玉手箱」・「公務員試験数的推理がみるみるわかる！解法の玉手箱」：公務員講座で使用した教材です。同じ問題を何度も繰り返し、素早く解けるようにしていました。

「これが本当のSCOAだ！」：参考書の同じ問題がいくつか筆記試験に出題されたので、受験する自治体の試験がSCOAの人は買って勉強することをおすすめします。

**・大学時代もっと取り組んでおけばよかった、勉強しておけばよかったと思うこと**

⇒ボランティアやアルバイトなどガクチカにもう少し力を入れて取り組んでおけばよかったと思いました。ほとんどの面接でガクチカについての質問があり、深掘りされることが多かったのでエピソードがたくさんある方が話しやすいと思います。

**・面接の内容**

⇒志望動機・併願状況・中学高校大学の学校生活について(部活の内容やその学校を選んだ理由)・アルバイト・ボランティア・長所と短所(内容とエピソード)・友人・家族・自己PR・町の政策・関心のあること　など

性格やガクチカなど自分自身のことや経験について深掘りされることが多かったと思います。「友人や家族との関係性や自分がまわりの人からどのような人と言われるか」という質問をほとんどの自治体でされました。

**・面接対策としてやっておいた方が良いと感じたこと**

⇒私は3年生の秋から色々な自治体のHPを見ていました。4年生になって受験する自治体を決めてからはノートに自治体の情報をメモしたり、自治体の広報誌を読んでいました。面接の直前期には受験予定の町の雰囲気を知るために訪れたりしました。面接では、「この町に訪れたことはあるか」という質問や、「この町のイメージや雰囲気を教えてほしい」といった質問をされたことがあるので、受験予定の町の情報を早いうちから知って頭に入れておいた方が良いと思います。また、受験する予定の自治体の説明会に参加しておくと職員の方から直接町の情報を聞くことができ、質問する時間もあるため町について理解を深めることができるのでおすすめです。

**・その他公務員合格のために大事だと思ったこと**

⇒このまま公務員だけ受験するのか、それとも民間も受験するのか悩んでいた時にキャリア支援課に相談をして自分の進路を明確に決めることができました。相談した時にはすでに受験シーズン中で、筆記試験の手ごたえがなかったことによる不安や、まわりの人の就職先がどんどん決まっていくことへの不安から早く自分の進路を明確にして受験に集中しなければいけないと焦っていました。話を聞いてもらったことで落ち着いてこれから先の行動を考えられるようになり、不安も解消されました。自分の進路に悩んだ時には、まわりの人に相談をしてみると解決することもあるのではないかと思います。

**・就活についてのアドバイス、最後に後輩たちへメッセージ**

筆記試験は早めに対策をしておけばしておくほど後々楽になります。特に2，3年生のうちに数的処理を完璧にしておくといいと思います。面接は練習がなによりも大事だと思います。私は面接の経験がほとんどなく、面接練習を始めたばかりの頃は全く話せることができず、すごく苦労しました。面接の経験があまりない人は何度も練習を重ねて本命の受験先の面接試験日までに面接に慣れておいた方が良いと思います。